

に至り、北は鹽海子に至る所部の一旗札薩克多羅濟爾哈明貝勒の所領なり。

△中路和碩特部 は南路舊土爾扈特の西にある牧地にして、同じく裕勒都斯の游牧たり、所部の三旗を中左右の各一旗に分つ、札薩克三(貝子)あり。

△中路和碩特部 は南路舊土爾扈特の西にある牧地にして、同じく裕勒都斯の游牧たり、所部の三旗を中左右の各一旗に分つ、札薩克三(貝子)あり。

四 藩部

(甲) 北 藩

北藩は蒙古と概稱す、大別して内蒙古外蒙古額魯特蒙古の三となす、本と東胡匈奴鮮卑突厥回紇等更迭占據の牧地なり、位置は清國の北面に在り、東西相距る五千五百六十五清里、南北相距る二千五百六十清里、東は關東三省に接し、西は新疆に接し、南は直隸山西陝西甘肅四省に界し、北は露領西北利亞の薩拜喀勒伊爾庫次克葉尼塞托穆斯克四省に界す、○地勢 崑崙山脈の合黎山賀蘭山陰山等南に縣亘じ、阿爾泰山脈及之に接続せる杭愛山唐努山肯特山北に盤旋し、一大高原を成す、阿爾泰山の最も高さ處萬尺に達す、肯特山は一萬一千尺、沙漠あり、横さまに中央に界す、高度平

均三千尺乃至四千尺、東西三千四百清里、南北一千四百清里に出入す、東部は小沙陀を爲し、其の大半は草原を雜有す、西部は草樹絶へて少し、是を瀚海と爲す、亦大磧と稱す、四月の間狂驟屢々起り、沙礫飛揚し、陵谷遷易す、號して流沙となす、日清く風和く、毎に沙漠中遙に望めば、一種の雲氣あり、城郭宮室の半空に矗立するが如し、其理海中の蜃氣樓に同じ、古書に崑崙山五城十二樓ありと稱するは、即ち此の氣なり、(沙漠は蒙古語にて額倫と曰ひ、滿洲語に曰ふ) 此沙漠に因て蒙古を分つて兩大部とす、漠南を内蒙古と曰ひ、漠北を外蒙古と曰ふ、其額魯特蒙古亦分つて二と爲す、漠南を河西額魯特と曰ひ、漠北を金山額魯特と曰ふ、漠南の大水には黄河あり、其首は青海に在り、尾は内地に入る蒙古占むる所の惟一の河套たり、之に次ぐものは、則ち錫刺木倫の上流部及松花江中部の一曲のみ、漠北の大水を客魯倫河と曰ふ、其の全流清國の境内にあり、其の他色楞格河烏魯克穆河烏魯克穆河額爾齊斯河は下流皆な露國の境に入る、藪澤甚だ多し、○氣候 純大陸性にして、晝夜寒暑の差甚だしく、昇降五十度に至る、冬季は嚴寒にして、冽風四吹、地裂くること尺に盈ち、馬足を陥るに至る、夏日は酷暑にして、蹠足にて沙中を歩する能はず、然れども、夜に入れば、仍ほ薄氷を結

ぶ、四月中旬草始めて萌芽し、八月中旬已に雪を下す。地廣ふして而して瘠せ甚だ農業に適せず、故に諸部落主として游牧を以て生計と爲し、少しく稌(黍に似て而して)黍を種に酪を和して而して之を食ふ、酪内に鹽茶少許を加ふ、外蒙古は均しく水草を逐ふて移徙し居るに常處なし、居る所の穹廬は樺皮或は氈を以て之を作る形ち瓦窰の如く其頂を空にして以て煙氣を透す、牧を移すの時は之を櫓盤し載せて而して去る、内蒙古の内地に近く住する者少年は内地風に濡染し土室を築て而して之に居り且つ耕し且つ牧す、其畜牧は馬牛羊を以て主と爲し、駱駝驢騾之に次ぎ、兼ねて猪を畜ふ、又每家必ず、犬を畜ふ夜を伺ふ守犬と曰ひ、獵に馳する者を獵犬と曰ふ、其人は悉く喇嘛教を奉じ能く氈を製す、北部阿爾泰山脈中は鍼葉類の森林に富み、貂鼠、青鼠、鹿、麝、其中に産す、狼、狐、雉、兔は則ち所在之有、平地は鼠洞の穴多く、人馬多行するに慎まざれば、輒もすれば、頭駝を致と云ふ。

**内蒙古** (六盟二十五部四十八旗)

(一)哲里木盟 (四部十旗) は遼の上京道、長春州、泰州、黃龍府、龍化州等の地にして北は黒龍江省に接し、東は吉林省に接し、南は奉天省に接す、科爾沁部六旗は左右翼に

分つ、右翼附札賚特部二旗、杜爾伯特部一旗、左翼附郭爾羅斯部二旗、(親王二、郡王三、貝勒四、公二、輔)哲里木に盟ふ、地は科爾沁右翼中旗の境内に在り、貢道は山海關に由る、(地)勢、西北に山あり、中央東北、東南、西南は均しく坦平なり、嫩江は綽爾沁兒諸河を挾み、松花江と東北に會す、西遼河は横に其南を貫き、哈古勒河、阿魯坤都倫河合流して而して中央に瀦す、水草豊美にして耕牧に適す、新民、昌圖、長春、洮南、達賚の四府一廳は皆其牧地を借り而して設けたるものなり。

(二)卓索圖盟 (二部五旗併附收一旗) は遼の中京大定府の地にして、哲里木盟の西南に在り、奉天省の錦州府及直隸省の永平府、遵化州、邊外の地たり、喀喇沁部三旗は中左右翼に分れ、土默特二旗は左右翼に分れ、附土默特左翼一旗、(郡王一、貝勒二、貝)と共に卓索圖に盟ふ、地は土默特右翼境内に在り、貢道は喜峰口に由る、(地)勢、盧龍の塞(今の永平、遵化府内の長)に據り、東は醫巫閭山を肘し、北は平地松林に連り、磔河は宣孫河、熱河を挾み、其西を貫き、老哈河、大小凌河皆源を其東北に導く、山川奇秀、草木茂美にして耕牧に適す、夏に入るも暑なし、本と唐奚王暹曇宮の所在たり、清朝亦避暑山莊を築き、秋獵の時駐蹕の所と爲し、且つ承德、朝陽二府を開設す。

四月月中旬草始めて萌芽し、八月中旬已に雪を下す。地廣ふして而して瘠せ甚だ農業に適せず、故に諸部落主として游牧を以て生計と爲し、少しく稌(黍に似て而して、黍其色黄なり)黍を種に酪を和して而して之を食ふ、酪内に鹽茶少許を加ふ、外蒙古は均しく水草を逐ふて移徙し居るに常處なし、居る所の穹廬は樺皮或は氈を以て之を作る形ち互窓の如く其頂を空にして以て煙氣を透す、牧を移すの時は之を橇盤し載せて而して去る、内蒙古の内地に近く住する者少年は内地風に濡染し土室を築て而して之に居り、且つ耕し且つ牧す、其畜牧は馬牛羊を以て主と爲し、駱駝驢騾之に次ぎ、兼ねて猪を畜ふ、又每家必ず、犬を畜ふ夜を伺ふ守犬と曰ひ、獵に馳する者を獵犬と曰ふ、其人は悉く喇嘛教を奉じ、能く氈を製す、北部阿爾泰山脈中は鍼葉類の森林に富み、貂鼠青鼠鹿麋、其中に産す、狼狐雉兔は則ち所在之有り、平地は鼠狼の穴多く、人馬多行するに慎まざれば輒もすれば顛蹶を致と云ふ。

**内蒙古** (六盟二十五部四十八旗)

(一) 哲里木盟 (四部十旗) は遼の上京道長春州、泰州、黃龍府、龍化州等の地にして北は黑龍江省に接し、東は吉林省に接し、南は奉天省に接す、科爾沁部六旗は左右翼に分つ、右翼附札賚特部一旗、杜爾伯特部一旗、左翼附郭爾羅斯部二旗、勅貝子各一旗、國公二、輔里木に盟ふ、地は科爾沁右翼中旗の境内に在り、貢道は山海關に由る、地勢、西北に山あり、中央東北東南西南は均しく坦平なり、嫩江は綽爾沁兒諸河を挟み、松花江と東北に會す、西遼河は横に其南を貫き、哈古勒河、阿魯坤、都倫河合流して而して中央に瀉す、水草豊美にして耕牧に適す、新民、昌圖、長春、洮南、達賚の四府一廳は皆其牧地を借り而して設けたるものなり。

(二) 卓索圖盟二部五旗併附牧一旗) は遼の中京大定府の地にして哲里木盟の西南に在り、奉天省の錦州府及直隸省の永平府、遵化州、邊外の地たり、喀喇沁部三旗は中左右翼に分れ、土默特二旗は左右翼に分れ、附土默特左翼一旗、(部王、貝勒、二員)と共に卓索圖に盟ふ、地は土默特右翼境内に在り、貢道は喜峰口に由る、地勢、盧龍の塞(今の永平、遵化府内の長)に據り、東は醫巫閭山を肘し、北は平地、松林に連り、鑿河は宜孫河、熱河を挟み、其西を貫き、老哈河、大小凌河、皆源を其東北に導く、山川奇秀、草木茂美にして耕牧に適す、夏に入るも暑なし、本と唐奚王暹魯宮の所在たり、清朝亦避暑山莊を築き、秋獵の時駐蹕の所と爲し、且つ承德、朝陽二府を開設す。

(三)昭烏達盟(八部十一旗)は遼の上京臨潢府及其所屬祖懷儀坤烏永饒諸州の地に於て哲里木盟の西にあり敖漢罕部一旗奈曼部一旗巴林部二旗札魯特部二旗阿魯科爾沁部一旗翁牛特部二旗克什克騰部一旗喀爾喀左翼一旗(二旗は皆左右翼に分貝子一昭烏達に盟ふは舊時放罕王を以て盟長となせしが今)地は翁牛特左翼境内に在り貫道は巴林及克什克騰の二部は獨石口よりし他の六部は喜峰口よりす◎地勢 騰山の脈頂を起し白岔山(白岔亦拜察奔達に作)と爲り西南より東北に向ひ斜に其間に亘る(餘の十旗は皆山左右に在り)西遼河(喇木倫と曰ふ)源を平地松林(今)に出し察罕木倫と老哈河とを挟み之を横貫す哈齊爾河(或は訛訛に作る)非又銀刺温都兒山を抱き合流し滌して達布蘇圖泊(地の博羅城は即ち臨潢府の遺址なり)と爲る山川雄秀にして水草豊美なり契丹の興る實に此に基く平地松林は克什克騰旗の牧地にあり鬱然數百清里周に亘る之と肥場(我御場)と謂ふ其中禽獸に饒なり咸豐以前は皇帝の秋獵此に在り千清里以内の蒙王公各其屬を率ゐり而して合圍す同治より以後此禮久しく舉行せず清期尙武の精神今は大に怠る。

(四)錫林郭勒盟(五部十旗)は遼の慶州の地にして元に應昌路と曰ふ昭烏達盟の西

に在り南直隸と相對す烏珠穆沁部三旗浩齊特部二旗蘇尼特部三旗阿巴噶部二旗阿巴哈納爾部二旗皆左右翼に分る(凡て親王一郡王)錫林郭勒に盟ふ地は阿巴噶左翼阿巴哈納爾左翼兩界上に在り貫道は烏珠穆沁浩齊特阿巴噶及阿巴哈納爾左翼は獨石口よりし阿巴噶及阿巴哈納爾右翼及蘇尼特は張家口よりす◎地勢 白岔山東北に連り蘇克蘇魯山と爲る諸部皆山右に在り平原莽々到處小沙陀ありて巨川なく泉泊多し就中達里泊を最大となす周三百清里即ち元史の所謂答兒騰兒にして漢語に魚兒澤と呼ぶものなり盛に魚を産す附近に又大水淖爾及鹽澤等あり故に地瘠薄と雖魚鹽の利を饒有す關内の流民争て之に趨く。

以上は東四盟と通稱す皆な札薩克あり(惟卓索圖盟土默特左翼(附牧一旗札薩克なし))

(五)烏蘭察布盟(四部六旗)は漢の雲中五原二郡にして金の雲内東勝淨州及汪古部の地たり錫林郭勒盟の西南に在り東南は山西に界し河套を隔て鄂爾多斯部と相望む四子部落一旗茂明安部一旗烏喇特中前後三旗喀爾喀左翼一旗(凡て郡王一公二輔國公)烏蘭察布に盟ふ地は四子部落の境内にあり貫道は張家口よりす惟烏喇特部は殺虎口よりす◎地勢 南は陰山に據り俯して河套を臨み北は大漠に接

し草原を雜有し井泉多し張家口より外蒙古に出づるの官道は此盟内を經過す、恰克圖往來の商賈亦必ず此盟を通行す。

(六)伊克昭盟二部七旗は秦の時義渠戎王の地を得て之を新秦中と曰ふ漢初に匈奴河南王の地たり、後ち朔方上郡を置く、烏蘭察布盟の南に在り、南陝西に界す、鄂爾多斯部は左右翼に分れ每翼各中前後旗に分る、而して右翼又前未旗あり、(郡王貝勒貝子伊克昭)爾と曰ふ)に同盟す、貢道は殺虎口よりす。◎地勢 全く黄河の套に據り南榆塞に臨み北陰山を負ひ淺草平沙耕牧に適す、近來漢民を招き開墾殆んど半し畜牧繁盛なり、産する所の羊皮は光澤あり輕くして暖く最も有名なり。

附記察哈爾及歸化城土默特

(一)察哈爾は明末の掃漠部にして林丹汗此に據る、太宗の征服する所となり八旗に編入し左右翼に分つ、左翼四旗を鑲黃正白鑲白正藍と曰ひ、右翼四旗を正黃正紅鑲紅鑲藍と曰ふ、而して正黃又分つて東西の各半旗と爲す、皆札薩克を置かず、最も先に歸附せし舊喀爾喀も亦附牧す、都統副都統各一人を設く之を直轄す、其地は宜

化府張家口及獨石口の外にあり、内務府の牛羊群牧場、太僕寺の驢馬牧場等其間に錯在す、近年牧地半は漢民の墾闢する所と爲り、多倫諾爾、獨石口、張家口、廳を設け、撫民同知を置き之を治め、直隸省に編入す、然れども其人種部落自ら異なるものあり、其の内扎薩克に非らざるを以て、内蒙古部に列せず、附記と爲す。◎地勢は直隸省口北三廳の部に詳し。

(二)歸化城土默特は二旗にして左右翼に分つ、佐領に編入し札薩克を置かず、綏遠城將軍及歸化城副都統を置き之を直轄せしむ、其牧地は山西省の大同、朔平二府の邊外にして河套の東北にあり、此部の人種は本と成吉思汗の後たり、然れども其の被服は繒績を用ゐ、室を築き而して耕す、其の言語風俗諸喀爾喀と稍異なり、蓋し其の未だ歸化せざるの先深く金山以北、秃馬牧の地に入り、林中の百姓の類化する所となれるものなり、故に土默特の稱あり、數十年來其の牧地は漸く漢民の占墾する所と爲り、今は益々開闢し前後を通じ九撫民廳を置く、即ち歸化、薩拉齊、清水河、托克托、和林格爾、寧遠、興和、武川、陶林是なり、内地に編入すと雖其部落自ら異なる在り、故に此に附記す。◎地勢は山西省九廳の部に詳し。

口 外蒙古 (四盟四部八十六旗)

(一) 喀魯倫巴爾和屯盟二部二十三旗 是喀爾喀東路車臣汗部にして古北口邊外の漠北に在り京師に至る二千五百清里漢の時匈奴左賢王の地たり魏晉の時鮮卑左部之に據る蒙古成吉思汗亦此に起る東は額爾德尼陀羅海に界し黑龍江省の呼倫貝爾城に接し南は塔爾濱柴達木に界し小沙陀を踰へ而して内蒙古の浩齊特阿巴噶阿巴哈納爾諸部に接し西は察罕齊老圖に接し北は溫都爾罕に界し露領薩拜喀動省に接し東南は烏珠穆沁部に接し西と西南は均しく土謝圖汗部に接す所部二十三旗を中軍及左右翼に分つ中軍第一旗を根格車臣汗旗と稱す盟長根格車臣汗自ら之を領す其餘は分つて中前中後中左中右中末中末右中末右中左前中右後各一旗とし左翼は中前後後末左右各一旗に分つ右翼は中前後左中前中左中右各一旗に分つ(凡て汗一親王一郡王一貝勒一貝子)統べて喀魯倫河北の巴爾和屯に盟ふ遼河董城の遺址なり○地勢 西は肯特山脈の布爾罕哈勒敦秀峰に據り東に連り頂を起し巴顏鄂刺山と爲る魯倫河鄂爾河は斜に其間を貫く南面は極望小沙陀にして中に略は孤山草原を雜有するを見るのみ其の布爾罕哈勒敦山最も高峻にし

て鄂嫩喀魯倫圖刺三河の源たり。

(二) 汗阿林盟一部二十旗 是喀爾喀後路土謝圖汗部にして大同府邊外の漠北に在り京師を離る二千八百餘清里唐の時回紇同羅部たり遼の鎮州の地にして元に嶺北行中書省に屬す東は肯特山に界し車臣汗部に接し南は瀚海に界し西は翁金河に界し賽音諾顏部に接し北は赤奎河に界し露領薩拜喀動省に接し東南は瀚海を踰へて内蒙古の蘇尼特右翼四子部落哈爾哈右翼に接し西北一隅は定邊左副將軍所屬の唐努烏梁海に接す所部二十旗を中軍及左右翼に分つ中軍第一旗を土謝圖汗旗ト稱す盟長幹齊賚巴圖士謝圖汗自ら之を領す其餘を中中左中右中次中左中右末各一旗に分つ左翼は左左前左後在中左末右末左中末各一旗に分ち右翼は左右左後左末右末右末次各一旗に分つ(凡て汗一親王一郡王一貝子)統べて圖刺河南の汗阿林(汗山)に盟ふ金末に王罕嘗て此に居る故に名づく○地勢 左は肯特山に據り右は杭愛山に憑り汗山其中に秀峙す圖刺河は山の北麓を経て西北流し哈爾阿哈河霍達森河鄂爾坤河を挟み曲々東北流し色楞格河と會し露領の拜喀勒湖に滯入す南は瀚海に面し中に策々山(山として北)の孤嶼あり王罕最後に牙を建つ

る處にして成吉思汗の敗る所となり亡ひたり中旗の牧地を庫倫(赤烏爾)と名く、本と哲布尊丹巴胡圖克圖の木柵城たり庫倫辦事大臣駐在す圖刺河右岸に瀕す、其北八百餘清里恰克圖と曰ふ買賣城と僅に中立地(廣西約)を隔つるのみ、二百年來清國と露國との通商場たり、每歲市あり商業興盛なり、電信郵便局あり。

(三)齊齊爾里克盟(一部二十四旗)は喀爾喀中路賽音諾顏部にして寧夏府邊外の漠北にあり京師に至る三千餘清里、漢の時匈奴單于及唐の時突厥回紇、皆之を以て王廷と爲す、蒙古成吉思、窩闊、台古余克蒙哥の四汗先後して四朝此に都し、哈刺和林と稱す、其後改めて嶺北行中書省と爲すものなり、東は博羅布爾哈蘇多歡に界し、土謝圖汗部に接し、南は拜達里克に界し、瀚海を踰へ、烏喇特阿拉善額濟納諸部に接し、西は庫勒薩雅李郭圖額金嶺に界し、北は鄂壘爾河に界し、皆札薩克圖汗部に接し、東北は唐努烏梁海に至る、所部二十二旗にして中軍及左右翼に分つ、中軍第一旗を賽音諾顏旗と稱す、盟長扎薩克和碩親王の自領たり、其餘を中前、中後、中左、中右、中末、中後末、中左末、中右末、各一旗に分ち、左翼を中、左、右、左末、各一旗に分ち、右翼を前後、末、中、左、中末、左末、右末、右後、各一旗に分ち、附屬として額魯特旗及額魯特前旗あり(親王)

三、郡王貝勒、鎮國公貝子、輔統へて齊爾里克に盟ふ。○地勢 阿爾泰杭愛唐努三山脈の彙に據り、色楞格河及其支流鄂爾坤河札盆河(布干河)皆源を此に導く、其餘の小水は皆南流して瀚海に瀦す、巴彥察罕山及之に續ける阿爾察博哈多山は西北より斜に東南に向つて瀚海中に界す、即ち金山の餘脈なり、此部の山川雄麗にして推して漠北第一と爲す、其勝跡は則ち匈奴單于の龍庭にして唐書の所謂富貴城たり、色楞格河の北岸に在り、回紇志伽可汗の宮城及蒙哥汗建つる所の哈刺和林城迦堅茶寒殿の遺址は皆な盟地の東南額魯特旗の境内に在り、附近に唐石刻闕特勒碑あり、右末旗拜達里克の地は東西軍台往來の孔道に當る、金末に乃蠻の將可克薛兀撒卜刺黑嘗て軍を此に駐め、以て成吉思の汗の歸路を要せり、其の西北烏道四百清里に烏里雅蘇臺あり、定邊左副將軍の駐在する所なり。

(四)札克必刺色欽(札克は橋必刺は小畢都里雅諾爾盟)は喀爾喀西路札薩克圖汗部にして肅州の邊外漠北に在り、京師に至る四千餘清里、漢の時匈奴右賢王の地にして魏晉の時鮮卑右部之に據る、金末に乃蠻南部此に居る、東は翁錦錫爾哈勒珠特に界し、賽音諾顏部に接し、西は喀刺烏蘇都爾曼諾爾に界し、科布多界に接

し、南は阿爾泰哈刺托輝に界し瀚海を踰へ額濟納部及新疆の鎮西直隸廳に接し北は以特斯河に界し科布多に接し唐努烏梁海に接す所部の十九旗を左右翼に分つ第一旗は札薩克圖汗旗(即ち中旗)と稱し額爾德尼弼什噶圖札薩克圖汗衆多羅郡王爵自ら之を領し兼て右翼右旗の事を領す其餘の左翼は中前後左右中左中右中末後末各一旗に分ち右翼を前後右右末中左中末中末次後末の各一旗に分つ(凡て汗一郡王一貝勒一鎮一輝特一旗一台吉)を附す統て札克必刺色欽畢都里雅澤爾に盟ふ○地勢 阿爾泰山の左に據り形ち玦の如く其決處は東向し札盆河横に其間を貫く北部に森林多く南部に泉泊多し天然の牧場たり。  
(附)唐努烏梁海 は漢の堅昆にして唐の黠戛斯なり元に吉利吉思(今の高城合納欠) 欠州部等の地たり東は露領伊爾庫次克省に界し南は外蒙古の賽音諾顏部札薩克圖汗部及科布多に界し西は露領托穆斯克省に界し北は同葉尼賽斯克省に界し東南一隅を以て外蒙古土謝圖汗部に界す○地勢 唐努山(唐書之を唐嶺嶺と曰ひ元史之を尙魯山と曰ひ) を據有し南は阿爾泰及杭愛二山に連り北は薩彥嶺(山と曰ひ) に連り山高く林密なり烏魯克穆河貝克穆河と相合して克穆克穆河と爲り其間を横貫し(即ち元史の池は)

大州北流して露境入にり葉尼賽河と爲る其著名の藪澤東に庫蘇古爾泊あり周五百餘清里(烏魯克穆河の源此に出づ) 猶ほ東に陶托泊あり(湖にして周二百清里許に西阿爾泰澤爾あり) 周四百清里許此の一部は今は露領葉尼賽省に入る氣候嚴寒にして部人森林中に生長し游を以て生計と爲し兼ねて耕牧を事とす○物産 として松樺貂鼠青鼠黃金鐵等あり所部凡そ四あり唐努烏梁海と概稱す(烏梁海は即ち元史の衛拉特なり) 今左に之を分述す。  
1. 定邊左副將軍所屬の唐努烏梁海 は凡そ二十五佐領にして一は德勒格爾河の東岸に在り外蒙古賽音諾顏部と界を接し二は庫蘇古爾泊の東北に在り四は貝古穆河の屈曲西流點に當り三は讓和爺阿拉河の源に當り四は噶哈河の源に當り其十は西北に在り阿爾泰山と穆哈河に跨り露境に錯在す。  
2. 札薩克圖汗部所屬の唐努烏梁海 は凡て五佐領にして一は庫蘇古爾の北に在り二は德勒格爾河の西岸に在り一は北は貝克穆河に臨み西南は烏魯克穆河に臨み二は讓什克一河の西にあり一は札薩克圖汗部の源に當る。  
3. 賽音諾顏部所屬の唐努烏梁海 は凡そ十三佐領俱に南は鄂爾噶克山に依り西



は科布多所屬の阿爾泰、準爾烏梁海二旗と接し、北は露領托穆斯克省と界を爲す。  
4 哲布尊丹巴胡圖克圖門徒所屬の唐努烏梁海は凡て三佐領にして陶托泊の上  
源騰吉斯河の東岸にあり、北露國の伊爾庫次克省と界す。

以上烏梁海部は皆な唐努山にあるものなり、此外阿爾泰、烏梁海七旗あり、科布  
多大臣に屬し、科布多界内にあり、又阿爾泰、準爾烏梁海二旗あり、阿爾泰、準爾  
近旁にあり、向きに科布多大臣に屬せしも、今は露領に屬す、凡て烏梁海の人種  
は遊獵を以て生計と爲し、畜牧を解せず、勿論耕農の人にあらずと云ふ。

額魯特蒙古

額魯特は舊時四部に分つ、一を和碩特(圖有リ)と曰ひ、博爾濟吉特氏、成吉思汗の弟哈  
撒兒の後にして乃ち純粹の蒙古種なり、一を準噶爾と曰ひ、一を杜爾伯特と曰ふ、皆  
な綽羅斯氏(即ち狼)乃ち蒙古の分族たり(案するに準噶爾は即ち杜爾伯特の一にして杜  
爾伯特の四牧群あり、一を土爾扈特と曰ふ、乃ち突厥人種にして輝特ある者なり、伊  
克明安氏最も微なるの時初め杜爾伯特に隸せり、凡そ此諸部は皆金山(即ち河)に駐  
牧す、金山に兀魯黑塔(科布多)なる地名あり、故に兀魯黑塔部と號せり、其語遂に誤り

て額魯特と爲る、其地森林多きを以て又之を幹亦刺惕額兒干(譯して林木中)と謂ふ  
其幹亦刺惕を誤りて衛拉特と云ふ、其後諸部分析し、游牧し他に赴くも、仍ほ  
舊號を以て額魯特と稱す、惟杜爾伯特と準噶爾と聚まつて金山に牧し、他に赴かず、  
準噶爾滅してより餘衆併せて杜爾伯特に入り、復た自ら其名を著さず、現今杜爾伯  
特は科布多大臣に隸し、定邊左副將軍の節制を受く、其餘の諸部は賀蘭山、額濟納、伊  
犁、青海地方に散在す、今之を左に分述す。

(一) 賀蘭山額魯特蒙古は阿拉善(即ち賀蘭山)額魯特部にして、黄河の西、賀蘭山の  
右麓に在り、表延七百清里、餘京師に至る五千清里、本と和碩特と號す、所部一旗盟を  
設けず、札薩克和碩親王の牧地たり、賀蘭山の西、龍頭山(蒙古に曰ふ)に當る、東は寧  
夏府及蒙古鄂爾多斯部に接し、南は涼州、甘州二府に至り、西は古爾鼎に至り、額濟納  
土爾扈特部に接し、北は瀚海を踰えて、外蒙古賽音諾顏及札薩克圖汗部に接し、東北  
は內蒙古烏刺特部に接す、札薩克は定遠城に駐在す、城北に吉蘭泰鹽湖あり、陝西甘  
肅二省の民蕃共に食を之に仰ぐ。

(二) 額濟納舊土爾扈特部は元の亦集乃路にして、阿拉善旗の西に在り、甘肅省の甘

州府及肅州直隸州の邊外に接し、北は瀚海を踰へ、札薩克圖汗部に接す、所部一旗盟を設けず、額濟納河あり、肅州より北流して邊を出て是に至つて沙に滯す(即ち亦集乃の)、即ち禹貢の所謂弱水なり。

以上の二部は均しく、南甘肅省に接し、黄河の西にあり、之を總稱して河西額魯特と曰ふべし、地勢皆坦平、彌々望めば沙磧のみ、草原を雜有し、泉泊多し。

(三)金山額魯特 是凡そ七部あり、一を杜爾伯特と曰ふ、凡そ二部にして、兩翼十四旗及附屬の輝特二旗に分つ、之を賽音濟雅哈圖盟と爲す、一を新土爾扈特と曰ふ、一部二旗あり、是を青色特啓勒圖盟と爲す、一を新和碩特部と曰ふ、一旗にして、札薩克あり、盟を設けず、以上の四部は皆科布多大臣の兼轄を受け而して、又定邊左副將軍の節制を受く、一を明阿特部(旗)と曰ひ、一を札哈沁部(旗)と曰ひ、一を額魯特旗と曰ふ、以上三部は盟を設けず、亦札薩克なく、並に科布多大臣の直轄を受く、○科布多城は京師を距る六千二百八十清里、東は外蒙古札薩克圖汗部に接し、南は新疆省迪化府に接し、西は新疆塔爾巴哈台廳に接し、北は唐努烏梁海に界し、西北は歸領托穆斯克省及斜米巴刺敦斯克省と界を爲す、○地勢 西北は最も高峻にして、金山兀魯黑

塔の秀峯に據り、唐努山に連り、東走して杭愛山と相接し、其餘脈分れて二道と爲り、東南直に瀚海に趨る、科布多河斜に其中央を貫き、東南流し、滯して喀喇烏蘇澤爾と爲る、東北に特斯河あり、西流し、滯して烏布薩澤爾(下流は葉尼)と爲る、南に布爾干河あり、西北流して烏倫古河と爲り、赫薩爾巴什澤爾に滯す、而して額爾齊斯河亦源を城の西南の阿爾泰山に導く、北部は森林多く、禽獸に饒に、南は瀚海に臨み、井泉に乏しからず、隋の時突厥此に崛起す、金末に乃蠻部之に居り、成吉思汗の滅する所と爲る、今科布多大臣の所轄諸部を左に分述す。

△杜爾伯特部右翼十一旗 是其第一旗を杜爾伯特汗旗と曰ふ、盟長札薩克特因斯庫魯克達額汗自ら之を領し、其餘を中、中左、中前、中後、中上、中下、中前左、中前右、中後左、中後右、各一旗に分ち、輝特下前旗を附し、左翼三旗を前、前右、中右、各一旗に分ち、輝特下後旗を附す(凡て汗一、親王一、郡王一、貝勒一、其牧地は金の東烏蘭固木に據り、東は特斯河、(亦帖斯)南岸より、薩刺陀羅海、納林蘇穆河、(西北は烏布)察罕努魯山、(特斯河の南に在り、(帖)南岸より、唐努烏梁海と界を連ね、東南は哈布齊克布刺克、(隘口)拜性圖の南山及奇爾吉茲澤爾、愛刺克澤爾の南岸、札盆河の北岸、塔塔呼特喀里に至り、札薩克圖汗部

に接し、南は喀喇汗爾及伊克阿剌克汗爾北岸の齊齊噶山に至り、科布多牧場の界に連り、西南は科布多河の東岸に至り、明阿特旗と界を接す、此より科布多左岸に沿って、索果克河に至り、阿爾泰烏梁海の界に連る、兩翼を二盟に分ち、統へて賽音濟雅哈圖と名づく、是盟は乃ち金山額魯特中主要の一部なり。

△新土爾扈特 一部二旗を新右、新左に分ち、札薩克多羅阿哩克圖郡王は新右旗を領し、札薩克固山烏察喇勒圖貝子は新左旗を領す、牧地は科布多城の西南にして、阿爾泰山の南、布爾干河、烏倫古河の右岸に在り、青色特啓勒圖(青吉斯河の下流右岸)に盟ふ。

△新和碩特部一旗 は札薩克一等台吉の領にして、牧地は科布多城の南、哈爾察克に在り、阿爾泰山の東南に當る、西は青吉斯河に臨み、東は札薩克旗に界し、西及南は新土爾扈特部に界し、北は奔巴圖哈阿察克河に至る盟を設けず。

△札薩克部一旗 は札薩克を置かず、佐領を編管し、科布多大臣に隸す、牧地は科布多城の南、索爾必嶺の南に在り、東及南は札薩克圖汗部に界し、西は新和碩特部に界す。

△明阿特部一旗 は本と烏梁海種の人、札薩克を置かず、亦佐領を編管し、科布多大臣に隸す、牧地は科布多城の西北に在り、東は齊老圖山、科布多河に至り、杜爾伯特と界を爲し、南は科布多河の北岸に沿ふて、孫都爾山に至り、喀爾喀屯田兵及額魯特に界し、西及北は俱に杜爾伯特に界す。

額魯特一旗 は札薩克を置かず、亦佐領を編管し、科布多大臣に隸す、牧地は科布多城の西北、烏魯克依台の東、科布多河の右岸に在り、北杜爾伯特、右翼旗と河を以て界と爲す。

以上は皆科布多大臣所轄の金山額魯特なり、其伊犁及青海に徙居するの額魯特は西域及西蕃中に述べ。

(附)阿爾泰烏梁海 は七旗に分ち、阿爾泰山中に在り、科布多大臣に直隸す、其牧地は東都魯汗爾(札薩克圖汗部)より、哈切烏里雅蘇台に至り、杜爾伯特と界を爲し、稍南し、錫伯爾沙札海山、陶圖汗爾(泊に沙札海)の南山に至り、喀爾喀屯田兵と界を連ね、東南は溫都爾庫爾より、都木達爾庫爾、達賴爾庫爾の北山、哈爾察克に至り、札薩克と界し、又烏蘭波木に至り、新土爾扈特部と界す、南は烏蘭木烏倫古河より、赫薩爾巴什

渾爾に至り塔爾巴哈台所屬の舊土爾扈特に界し、西は巴斯渾爾に至り、北は哈爾達巴に至り俱に喀倫に界し、東北は索果克河、科布多河西岸、索和圖河に至り杜爾伯特と界を爲す。

(乙) 西蕃

西蕃を分つて二大部と爲す、青海部落、西藏部落是れなり。

イ、青海部落

青海は清國の全部の中央にあり、内地より見るときは稍西北に偏す本と禹貢の西戎の地たり、三代を歴て漢に至り西羌の地となり、東晉より唐に至り鮮卑種慕容氏の別部吐谷渾の據る所となる中間に王莽西海郡を置き、隋に西海河源二郡を置く、久しからずして又羌渾に没せらる唐の高宗の龍朔三年に地吐蕃に入り明の正徳間に至り始めて蒙古種亦不剌の竄據する所と爲り、嘉靖の後俺答及其子丙兔之を襲奪す、明末に成吉思汗の弟合撒兒の裔順賢汗西北より來り其地を侵有す、即ち今の和碩特部是なり、嗣て喀爾喀、綽羅斯、輝特、土爾扈特部先後して附牧錯居す、清朝に至り準噶爾を平げ五部に命じ分立せしめ其聯合の勢を殺ぎ、而して西蕃辦事大

臣の直轄を受けしむ、其幅員東西相距る約二千清里、南北相距る約千六百清里、東と北とは甘肅省に界し、南は前藏に接し、西及西北は新疆省に接し、東南は四川省に接す、◎地勢 巴顏哈刺山脈斜に中央を貫き、黄河揚子江上流の分水嶺を爲し、青海は其東北に位し、淵然滄溟す、地味瘠薄、唯青海のみ魚鹽の利あり、四圍の水草豊美にして天然の牧場たり、蒙古種人の之を繞りて住居するもの凡そ五部二十九旗、額魯特と通稱す、就中和碩特部二十一旗(郡王三、貝勒一、貝子二)、喀爾喀部一旗(台吉)、綽羅斯部二旗(貝勒、貝子)、輝特部一旗(公)、土爾扈特部四旗(台吉)等皆な黄河の流域及柴達木附近に傍りて游牧す、其非蒙古人種なる阿里克、蒙古爾、津、玉樹等の土司凡そ四十旗は本と羌渾吐蕃の遺裔にして、明以來蒙古に屬し、奴隸の境に陥りしを清朝之を解放し(別に納克書等の三十九族あり)、五部額魯特と同じく西蕃辦事大臣に隸せしめ、其貢賦を受く、其牧地は惟、阿里克の一族のみ黄河左岸にあり、其餘三十九族皆黄河右岸及揚子江の上流たる木魯烏蘇の兩岸に在り、四川省及前藏の界に接す、◎氣候 是純大陸性にして、略ぼ西藏及蒙古と同じく、風土人情亦相類す、此諸種の人皆喇嘛教を崇奉す、家畜は馬、牛、羊、駱駝等にして、馬尤も壯健、又長尾の犛牛あり、力多く重きを負ひ

其肉乳皮毛皆有用の品たり(其毛を以て冠を飾)又珠玉寶石及鹽を出し善く氈毯を製す凡そ額魯特の諸部は三年一貢にして三班に分ち九年にして一周す其四十姓の土司は即ち賦を西寧辦事大臣に納れ互市を甘肅省の西寧及四川省松潘廳口外の納刺薩刺に置く故に西寧は甘肅縁邊の一府なりと雖然れども西蕃諸族の貢道市場に當る辦事大臣此に駐節す。

口 西藏部落

西藏は清國の西面に在り古の三危にして漢の羌唐の吐蕃の地たり東西相距る三千六百六十餘清里南北相距一千四百餘清里東は大金沙江の谷を以て四川省に界し瀾滄江怒江の谷の一部を以て雲南省に界し北は唐古刺山脈(俗に當拉)を以て青海部に接し崑崙山脈を以て新疆省に接し南は喜馬刺雅山脈を以て英屬印度の喀蒙(或は西北)及獨立國の泥婆羅部(即ち廓爾喀亦す)悉気密部(亦錫金と稱す即)不丹郡(即ち布魯)並に英領阿薩密侯國及猪狗那蕃部と接壤し西は哈刺崑崙山脈を以て拉達克部魯楚部及當喀木郎二小部に界す○地勢 喜馬刺雅山脈にして印度洋に面する部は傾斜稍少さも其の山北西藏に面する部は峻急陡落し崑崙山脈は其間に

縣延盤結し以て此の世界第一の高原を成す此高原は海拔一萬尺より一萬七千尺に至る平均高度一萬五千尺其間稍低き處は即ち雅魯藏布川哈刺烏蘇及印度河の谷なり瀾滄江の源亦た察木多部の北に出づ地は高原にして四圍に高山深谷を擁し交通頗る澀難なり今其景况を略述すれば

1. 刺薩より東北行し刺里を経て三大偏關を出て喀木に入り東より北に連り察木多に至り東南に折れ九雅廟及江卡を経て又東し雲南省中甸縣邊の轄里に入り東北し金沙江を渡り四川に入り巴塘に至り又東し裏塘を経て打箭爐に至る此れ駐藏大臣往來の驛程にして即ち唐の時吐蕃の檇茂諸州に入寇せるの路なり。
2. 刺薩より北行し哈刺烏蘇を渡り唐古刺嶺を踰へ東北行し木魯烏蘇を涉り又東し巴顏哈刺山を踰へ黄河の源たる札陵鄂陵二海の間に出て東北行し青海の東南蓋牙刺山に至り山を踰へ甘肅省に入り西寧府に達す路較に直捷なり乃ち今日藏蕃入貢の道にして亦即ち唐時吐蕃の甘涼に入寇せるの路たり順沿間蒙古の額實汗青海より西藏に入り康熙の時準噶爾の將策凌敦多布的伊犁青海より入寇せるの路たり。

3. 刺薩より西行し噶如刺山口を出て而して後藏に入り札什倫布を経て又西し瑪爾裕穆嶺を踏へ阿里部に入り瑪爾裕達賴池岡底斯山南を経て又西北し加托克(譯に作喇)に至り二道に分れ一は西行し托林を経て薩特里日河に循ふて北印度の塞克及び旁遮普部に入る即ち古時馬基頓王亞列珊大東征の時波斯より此道を取らんとし將士の行を願はず而して折回せる處にして吐蕃の唐使王元策と共に中天竺を撃破せるの路なり一は北行し路多克城に至り又二道に分れ一は東北行し崑崙山脈の克里雅山を踏へ而して新疆の干闥縣に達し一は西北行し哈刺崑崙を踏へ拉達克部の潭濟に至り復た二道に分れ北東行するものは葱嶺の波謎羅高原を踏へ而して和闐州に至る即ち近年露國探險隊入藏の路にして亦た唐時吐蕃の疏勒を陥れし路たり又二道は潭濟より印度河に循ひ克什米爾部に入り以て阿富汗及波斯印度に達す。

4. 札什倫布より西南行するものは定日聶拉木の二城を経て喜馬刺雅山を踏へ泥婆羅に入る即ち乾隆五十五年廓爾喀部藏を侵せるの道なり。

5. 札什倫布より東南行し江孜に至り南に折れ章木錯(譯に海子)卓木拉里山(譯に拉高)

萬餘尺(譯に三)を踏へ春(譯に五)に至り亞東關を経て南し哨利山を踏へ支莫嶽山口に出て不丹部を経て以て英領加爾各答に通ずるもの即ち英藏陸路條約通商地にして光緒三十年英兵入藏の路なり。

◎氣候 嚴寒にして内地の浙江省と緯度を同うすと雖然れども地勢高峻にして山嶺の冰雪四時消へず且大陸の内部に在ては印度洋面より吹き來る温濕の風は喜馬刺雅山の障隔する所と爲り雪線上の嚴冬は一年の半に亘り温度降下すること零下四度に至る夏令は又非常に酷熱にして日甚だ短かし雨澤絶へて少く惟七八月の交微かに涓滴を見るのみ然れども札什倫布より西阿里に至る地は夏に入れば四山の冰雪融化して下流し到る處皆水となり夙に陸海の名あり秋冬は水涸れ風高く砂礫飛揚して天日を障蔽す西北部は樹木なく一大草原を成し犂牛羚羊及諸家畜天然の牧場たり農業地としては惟印度河雅魯藏布川哈刺烏蘇の三大川の谷地あるのみ。

◎物産 植物の農産に屬する者黑餅(譯に豆)大麥蕎麥豇豆にして就中黑餅を以て常食と爲す此外紅花最も奇貴に冬虫夏草は藥品となすべく菓物類は絶無なり

動物は家畜としては鶏、馬、牛、羊、驢、犬、豕等にして、就中犂牛は種類最も多く毛は潤澤にして肉は肥美なり、野獸には獼猴、天鼠、香麝あり、天鼠は其狀雀鼠の如く大さ猫の如し、麝は形ち麝の如く而して腹に囊あり奇香を蘊ふ、麝物には金屬に富むも宗教の説に惑はされ開採を許さず、其他珠玉、水銀、珊瑚、磁砂あり、土人善く藍、香料を製す、香は入貢品たり、清朝の大祭祀に用ゐらる、全境を康、衛、藏、阿、里の四部に分つ。

△康 は一に喀木と曰ふ、即ち羌なり、位置は全藏の最東部に在り、四川の打箭爐より以西三大偏關に至る凡そ横断山脈中の地は皆是なり、但し巴塘より以東打箭爐に至るの地は清朝に至り之を割て四川省に隸せしむ、西藏喀木の最高山を魯貢刺と曰ふ、高さ一萬八千尺あり、雅魯藏布川の支渠たる納貢川西南流し怒江の一部及瀾滄江の上游皆東南流し縦谷中を行く、要塞を察木多と曰ふ、瀾滄江の源たる薩川鄂宣川(藏語に川を)の間に據る滇、蜀、羌、隴の孔道に當る番民山に倚り洞を(室)建て洞宇軒廻す、坡下に營壘を築き市肆を列す、宛かも一都會の如し、察木多の東南を洛那宗と曰ひ、江卡と曰ふ、西南を刺貢と曰ひ、曲崗と曰ひ、碩般多と曰ひ、拉子と曰ひ、巴

里郎と曰ひ、達隆宗(即ち)と曰ひ、丹達と曰ふ、皆驛道に當る而して丹達は魯貢刺雪山の南に在り、又西北に三大偏關あり、乃ち舊時康、衛の分界たり、乾隆年間準噶爾の亂を平げしより康を以て衛に屬し總稱して前藏と曰ふ。

△衛 は亦前藏と曰ふ、喀木の西にあり、地勢北は唐古刺天山(唐古刺又は高拉に作る高さ一萬六千尺)に倚り、南は喜馬刺雅山脈の珠奇嶺(高さ二萬)に憑り、西は卓爾岡里(高さ一萬)を肘し、東は魯貢刺山を屏ひ、哈刺烏蘇及び雅魯藏布川其間を横貫し中に騰格里、淖爾を抱く、周千餘清里、高さ海拔一萬五千九百九十尺、冬は堅氷を結ぶ、都會を刺薩と曰ふ、四圍山を環らし草木を生せず、附近の平原南北六七十清里、東西二百清里の間土地沃饒にして人家稠密なり、刺薩は其中に在り、西藏辦事大臣正副各一人此に駐節す、即ち唐の時吐蕃の都する所の邏娑城(亦邏娑)なり、此城は米底克藏川谷(亦米底)に據る、此川は即ち唐書の所謂邏娑川なり、西南し雅魯藏布川に入る、源流千清里なり、刺薩城の北北山の南五清里許一石峰あり、周五清里、高さ千餘尺之を布達刺山(山として又作刺)と曰ふ、山に因り樓を築くこと十三層、金碧輝煌たり、達賴喇嘛坐牀の所たり、寺内僧徒二萬人あり、其西北二百餘清里は即ち騰格里、淖爾なり、刺薩より西南行百

清里札什爾城を過ぎ雅魯藏布川上の鐵索橋を渡り、又西南三十清里噶穆巴刺嶺口(一作干塘)を出て牙木魯克海子(又羊卓雍錯とも曰ふ)あり、形塊の如く周五百清里獨り其西を缺く其缺くる所一小池多木湖を衝む水深くして測るべからず唐書の所謂悶懼盧川にして贊普の夏衙の所在たり、中に桑里山あり海水之を環る、海の西岸に多爾濟拔姆宮今は納噶澤あり二萬三千五百尺の高地に在り、唐の時吐蕃王妃拜木薩の建つる所にして佛像に供せらるものなり。

△藏 は一に喀齊と曰ひ今は後藏と曰ふ前藏の西にあり、地勢南は喜馬拉亞山脈に據り中に額非爾斯の秀峰あり、北は崑崙山脈の察察嶺(譯して花嶺と曰ふ高さ)を負ひ、西は瑪父裕穆嶺(高七百尺)を挟み、東は卓爾岡里山に憑る、哈刺烏蘇及雅魯藏布川皆な源を境内に導く、中間に泉泊無數あり、夏秋の交四山冰雪融化し偏地汪洋たり、之を陸海と稱す、都會を日喀則と曰ひ大寺あり札什倫布と曰ふ班禪額爾德尼坐牀の所にして刺薩の西南五百三十清里に在り、其地本と賽爾と名く、北は雅魯藏布川に臨み西は其支流當川に瀕し、南は羅穆索納山に面し、殿宇壯麗なると布達刺に次ぐ、前明の永樂間黃教喇嘛の初祖宗喀巴の大弟子根報敦球(即ち喇嘛一)の建つ

る所たり、亞東關は通商地にして其南に在り、不丹哲孟雄の二部間に介す、輸出品は羊毛を以て大宗とし、約十分の八を占む、麝香、牛尾、羔皮、家畜等僅に其十分の二を占む、輸入品は則米、鹽、藥物、織物、珍珠、珊瑚、紙料等なり、靖西關理事同知は吉瑪に駐在す、地は西北春丕及東南亞東關と相離る各十清里にあり、亞東關を監督し西藏人と英商との互市に因り起る事件を裁判す、英人は印度の加爾各答より鐵道を築き北、大吉嶺に至り、道を分つて不丹哲孟雄を経て西藏に入り通商す、大吉嶺より陸路七日行程にして亞東關に至る、關を過ぐる十清里亞東汛あり、兵を設け駐防せしめ更に山險に因り邊牆を脩築す、靖西關と號するもの是なり、郵便、電信局あり、同知は四川總督の派遣せるものにして兼て駐藏大臣の節制を受く、札什倫布の東南百五十清里許にして江孜と名つくる地あり、東刺薩に通じ、南亞東に通ず、英人近日開いて通商地となせり、其他緊要の城を矢喀定、日轟拉木、濟龍宗、喀大丹羅和と曰ふ、皆交通に據る。

以上康衛藏は古の所謂三危なり、  
△阿里部 是後藏の西に在り、西は克什米爾及印度の旁遮部に接す、地勢西北は哈



刺崑崙(最高の峯を天山と云ふ)を負ひ、西南は喜馬拉亞に憑る(最高の嶺を留巴爾首にして三百八十尺實に喜馬拉亞の東北は阿林岡里山を帯び東南は瑪爾裕嶺に據り中に岡底斯の秀峰を包む、海拔二萬二千二百二十尺、周百四十清里、山中大池あり、瑪木達賴池と曰ふ、即ち佛書の所謂阿耨達池なり、山に四谷あり、四大水源を此に導く、東谷を達木津克喀巴布(譯して馬)と曰ひ、水の此口より流出するものは雅魯藏布川なり、南谷を朗と沁喀巴布(譯して象)と曰ふ、水の此口より流出するものは雅魯藏布(楚は川)と曰ふ、即ち薩特里河(下流は印度なり、西南の谷を瑪卜伽喀巴布(譯して馬)と曰ふ、水の此口より流出するものを馬楚と曰ふ、南流し、薩伽河に入る、北谷を僧格巴布(譯して獅子)と曰ふ、印度河此口より流出す、故に世界に於て最も有名の大分水嶺なり、南は英領印度の阿蒙部及泥婆羅部に通じ、西は印度の旁遮普部及克什米爾部に通じ、西北は露領の西突厥斯單及阿富汗波斯等の國に通じ、北は新疆の和闐州に通じ、其都會を加汗克(譯して馬)と曰ふ、印度河支流の那古河(譯して水)なり、非に瀕す、其襟要の城は西北に在りては塔什罕路多克諾和巴爾(譯して城)と曰ひ、西南に在ると大定(譯して林)澤布隆と曰ふ、皆交通の要點に據る、以上喀齊阿里的二

部は現今總稱して後藏と曰ふ。

◎種族 西藏種族は三苗を以て最初の土著と爲す、唐虞より以來其地に居る(此は上は考ふる)今の唐古特種は乃ち河西、鮮卑、秃髮、利鹿孤の後たり、其部落は黨項より出づ、語は誤りて唐兀惕と爲り、又誤りて唐古特と爲る、亦趙宋の時西夏の拓跋氏と同種にして元明以來蒙古種人亦其地に雜居し、血統淆混し、細別する能はず。

達木蒙古種五百三十八戸、羌種の納書克等の三十九姓、土司と哈刺烏蘇左右岸を夾み游牧す、皆達賴喇嘛の直轄を受け、亦駐藏大臣の節制に歸す。

◎宗教 宗教には新舊二種あり、舊教は亦紅教と曰ふ、其僧衣紅色を尙び、邪術を以て人を惑はし、荒淫度なし、新教亦黃教と曰ふ、其僧衣黃色を尙ぶ、前明の永樂間に宗哈巴の創むる所にして、舊教の流弊を改正せるものなり。

◎風俗 其風俗は不潔にして、下流社會は兄弟數人共に一妻を娶り、富貴の男子は則ち一夫數婦なり、其人宗教を信じ好んで僧徒と爲り、終身娶らざるもの全部の三分の一に居る、地味瘠薄、氣候不和なるを以て土地廣し、雖人口の生殖繁からず、且つ交通の禁頗る嚴なり。

◎物産 物産は繁富なるも貿易發達せず近來英人漸く互市の道を啓くも悉く全く成功するに至らず其政權は唐末より以來僧侶の手に握られ現今は僧俗に論なく一切治を達賴喇嘛及班禪額爾德尼に受く政教の一致せること恰も歐洲古時の羅馬法王の如し其都府所在の寺院は藏語之を珠克特亭と謂ふ僧を以て官と爲し其中に於て民事を判斷すること官衙と異ならず正副駐藏大臣は其地に駐在し之を監督す三年毎に交代す其職權は達賴喇嘛の承襲及其官の任命軍政外交鑄錢等の事を管理するにあるも歴代の大臣多くは無能にして徒に私利を營み遠謀を知らず因襲の久しき遂に今日の西藏をして英露競争の局と爲らしむるに至れり。

附 土司

土司なる者は流官に對するの名なり上古の九黎三苗の遺裔にして歴代漢族の追逐する所となり深山窮谷に屏居す所謂高地族なるもの是なり部落各々君長あり子孫世襲すること封建の諸侯の如し南嶺北嶺及橫斷山脈中皆之れ有り漢以後の西羌西南夷山越百越五溪蠻百濮南詔黎峒等皆是なり唐宋の間其會或は地を擧げて内附し之に州の名を賜ひ世襲して刺史等の官たらしめしものあり就中漢種の

流官其地に請居せしもの久ふして之と同化し其權利を竊み從て而して其人を役屬し之が君長と爲るもの其大半に居る元代に其大部會を以て宣慰司と爲し其次を宣撫司安撫司又其次を長官司と爲す土司の稱實に此に防まる明及清朝之を用ゆ其地大半險阻にして兵を用ゆるに難し且地味礪瘠にして漢族の爲めに利あらず故に歴代中央政府は羈縻の術を類用し其舊俗に因て自治を許し加ふに官賞を以てす其漢地の城邑と相近きものは之を熟苗と謂ひ一年若くば三年に一回貢物を献せしむ即ち各其土産なる布帛菽粟家畜に就き各省に於て銀兩に換算し之を政府に納めしむ其漢民と全く相通せず而して有司に籍せざるもの之を生苗と云ふ風俗猥陋賦性蠢愚太古の民たり本と漢地府廳州縣と疆を劃して而して治む然れども其叛服常ならず且其本部に於て内擅に威福を作し種人を苛暴し或は部落相讎するに因り彼此交闘し殘殺已ます近來漸く之を内地に編入し今は湖南廣東の已に土司なきに至り其土司あるものは惟四川雲南貴州廣西四省の山地のみ今其政府任命の世襲者を表示すれば左の如し。

省名	府州縣名	土司の名稱
四川省	茂州府、石碛縣、龍安府、武平縣、雅安府、滄溪縣	茂州府 隨水長官司 石碛縣 土通判 龍安府 土通判及陽地隘口長官司 武平縣 九姓長官司 雅安府 沈邊長官司、涼邊長官司 滄溪縣 太平長官司、古黎州安鎮土司
雲南省	臨安府、建水縣、廣南府、永昌府、元江州	臨安府 納樓老何長官司 建水縣 納史土巡檢 廣南府 土富州 永昌府 灣甸土州 元江州 新平土縣丞
貴州省	貴陽府、貴定縣	貴陽府 羊場正長官司 貴定縣 太平正長官司
此の外雲南及東南西南西北の土司甚だ多し		

省	州	貴州
廣西	慶遠府、南甯府、太平府、鎮安府、歸順府、百色廳	開州、定州、思州、思南府、鎮遠府、黃平州、都勻府、麻哈州、獨山州、平越州
<p>南丹土知州、那地土知州、東蘭土知州、忻城土知州、宜州土知州、果化土知州、萬承、思陵、憑祥、太平、安平、茗盈、結安、信倫、龍英、都給、江、思、上下、石の十四土知州及羅陽、羅白の二十一知縣、向武土知州、都康土知州、上峽土知縣、下雷土知州、上林土知縣</p>		<p>乘西正長官司、木瓜長官司(別に木瓜長官あるも世襲にあらず)、方祥長官司、都平正長官司、黃通正長官司、融溪正長官司(別に都平正長官司あるも世襲にあらず)、治河正長官司、水德長官司、邛江長官司、備橋正長官司、正左司、正右司、邛水撥溪正長官司(世襲にあらずるも認可を受くるもの)邛水長官司、重安長官司、都勻正長官司、平定正長官司、眼色土同知、楊縣長官司</p>

以上の酋長は皆漢族に出て、漢官の直接管轄を受く、此外眞の土著に至つては四川省の大小金川、明正、瞻對、瓦述、麻里、邛部、雲南省の永寧、土府、莫索、司車、里宣慰司、耿馬、龍川、千崖、南甸の諸宣撫、遮放、盞達の諸副宣撫、路江、芒市、猛卯の諸安撫、貴州省の丹平、平舟、羅里の諸司、廣西省の大藤峽、諸峒の諸人等、擧て數ふべからず、或は貢を納れ、或は貢を納れず、皆酋長自ら其部人を治め、漢官の間接管轄を受くるものなり、其他阿里、克等の番戶四十族は青海の西南、四川の西北境上にあり、西寧、辦事大臣に直隸し、納克書等の番戶三十九族は喀木前藏の間に在り、達賴喇嘛に直隸す、皆土司の類にして、土千戶、百戶、百長、散百長等あり、以て其族人を領す、其他安南、老撾、緬甸等の諸國に散居し、清國に境内に在らざるもの亦少なからず。

土司の生業は隨地同しからず、其青海、西藏及四川、雲南の邊に在るものは、大概蒙古吐蕃の類化を受け、游牧に従事し、喇嘛教を信奉す、其貴州、廣西に在るものは、漁獵より農業に入り、禽獸、木石の類を崇拜す、衣裳、斑斕、言語、侏僂にして、歌舞を好くす、其男女、糾合し、春月を以て山に入り、唱歌す、相悦ぶ者は、則ち配偶を爲す、其酋長は一人、數婦を娶る、猶ほ古の諸侯の一人九女を娶るが如しと云ふ。

明治四十五年五月廿九日再版發行  
明治四十五年五月廿三日發行  
明治四十五年五月廿九日再版發行

(最新支那通志附)  
定價金貳圓

著者 山縣初男

發行者 東京市麴町區隼町四番地 小林又七

發行者 東京市神田區裏神保町九番地 坂本嘉治馬

印刷者 東京市牛込區市谷加賀町一丁目拾貳番地 藤本兼吉

印刷所 東京市牛込區市谷加賀町一丁目拾貳番地 秀英舍第一工場

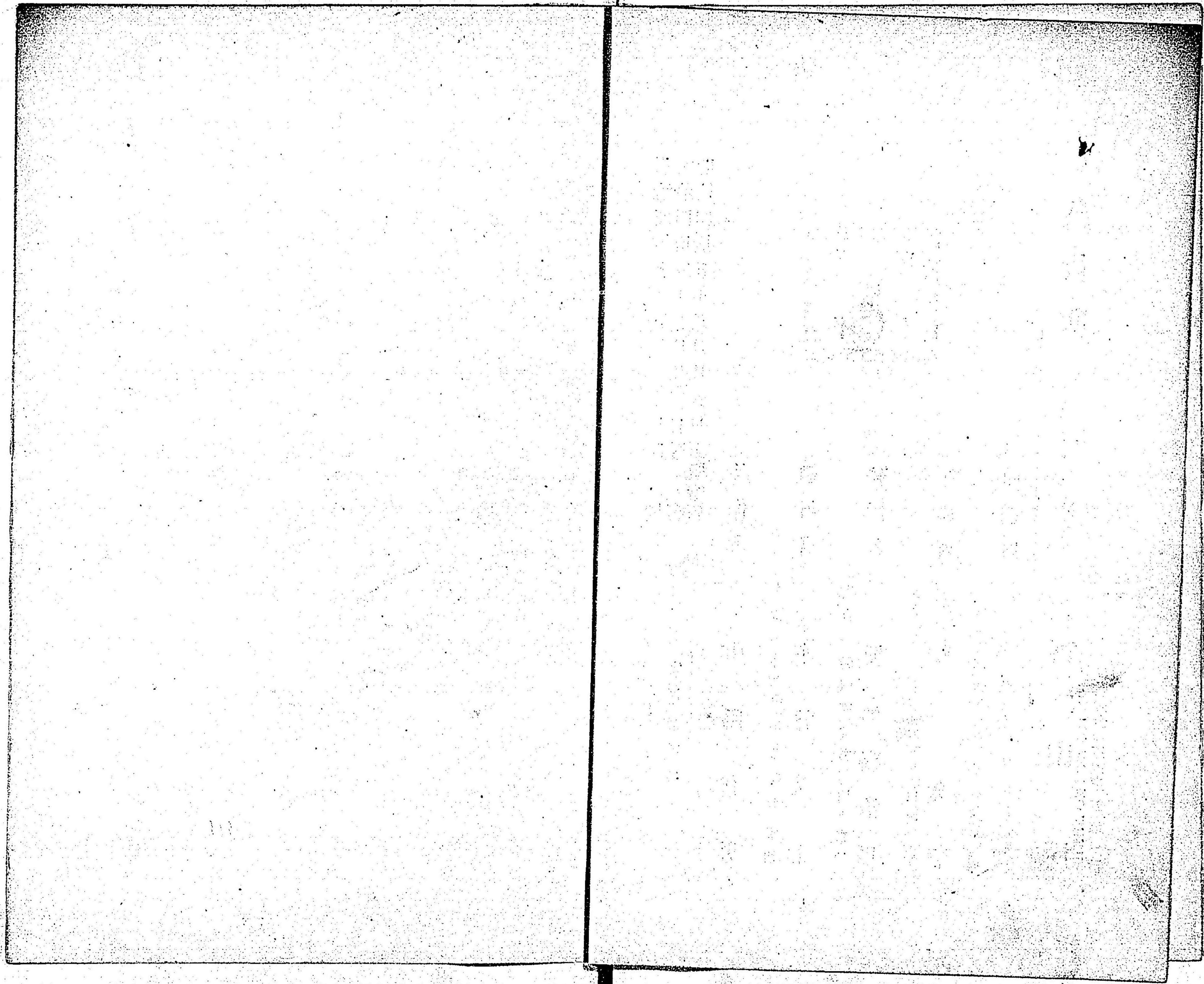


發行所

(明治廿九年六月廿日改立)

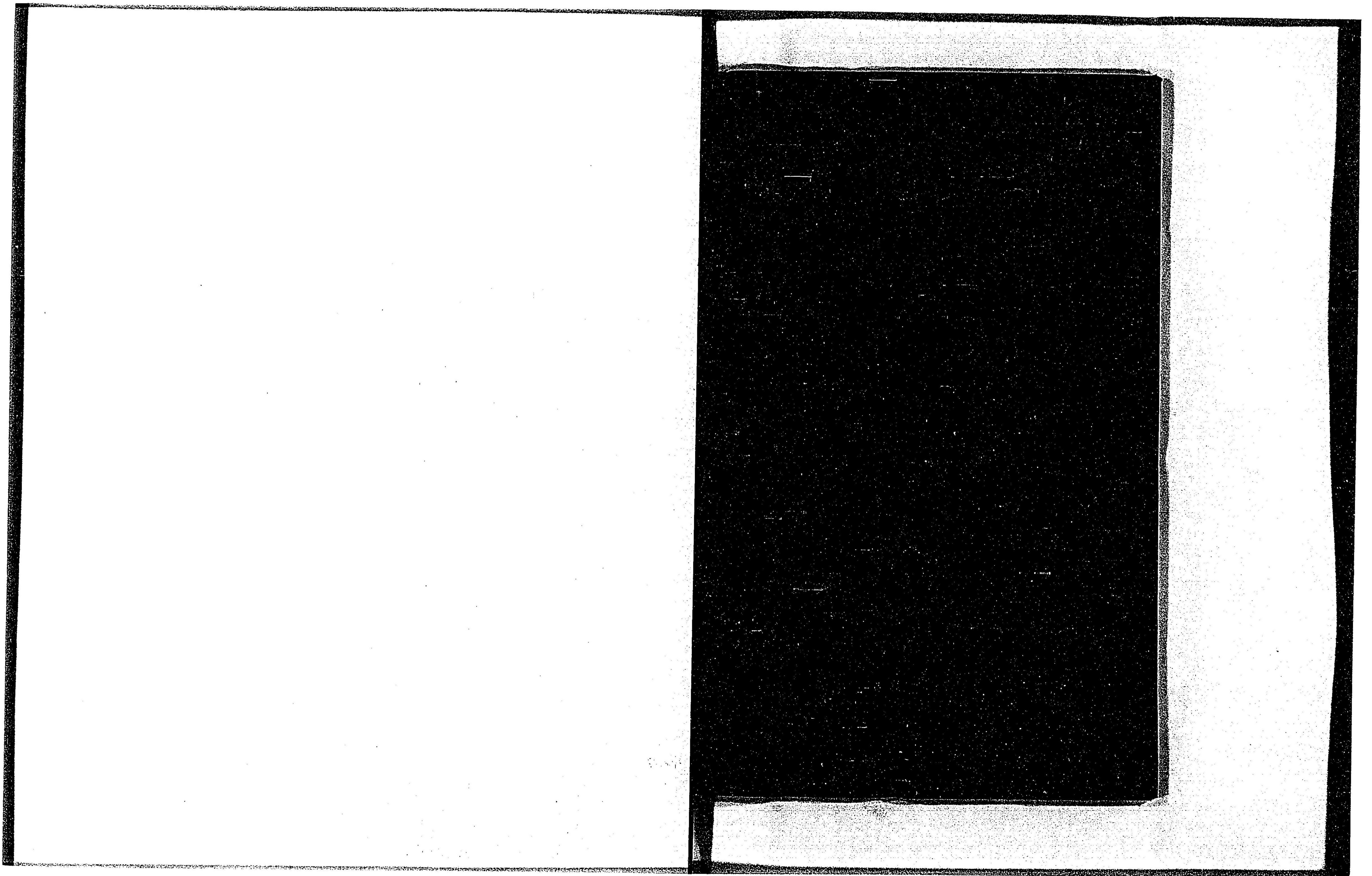
合資會社 富山房

電話號碼一〇三六四一三〇、四四四二番  
振替貯金口座東京五〇一番



GANNING TIAN  
店書堂南

CL  
NO. 11451







026500-000-0

292.2-Y234s

最新支那通志

山県 初男/著

M45

ADD-0161



